

## 米国臨床薬学研修の効果に関する検討

○戸張 裕子<sup>1</sup>, 中島 由紀<sup>1</sup>, 杉浦 宗敏<sup>1</sup>, 林 良雄<sup>1</sup>, 野水 基義<sup>1</sup>, 笹津 備規<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東京薬大薬)

**【目的】**国際的な視野を兼ね備えた薬剤師の育成に向けた教育プログラムの充実に資することを目的に、本学が実施している米国臨床薬学研修の効果について評価した。

**【方法】**2013 年度に南カリフォルニア大学(USC)ならびにカリフォルニア大学サンフランシスコ校薬学部(UCSF)にて研修を行った薬学部 5 年生(それぞれ 14 人、20 人)を対象に、研修前後に自記式質問票を用いた調査を行った。

**【結果】**対象者の参加目的は多様であったが、「研修が自身の目的達成に役に立った」との評定には、両群共に 10 点満点中平均約 8 点をつけ、有用と評価した。対象者のほぼ全員が、研修により視野が広がる等の理由から米国臨床研修を後輩に勧めたいと回答した(USC 群 100%, UCSF 群 90%)。USC 群では、「英語が好き」「外国人とは違和感を感じることなく気軽に接することができる」との英語コミュニケーションに関するスコア(10 点満点)が、研修後に有意に増加した。UCSF 群では、「研修先の学生から学問的な面で刺激を受けた」との国際交流に関するスコアが、研修後に有意に増加し、「英語の運用能力は将来自分のキャリアに必要なものになると思う」との職能開発に関連するスコアについては、USC 群と比較して高い傾向にあった。両群ともにほぼ全員が留学を希望していたが、その目的は USC 群の約 7 割が語学力向上、UCSF 群の 4 割が専門分野での研究と回答しており、両群間で異なる傾向にあった。海外での就職を考えたことがある学生の割合は、USC 群では研修前と比較して研修後に増加したが(43% から 64%)、UCSF 群では低下する傾向にあった(80% から 55%)。**【考察】**本学における米国臨床薬学研修は、UCSF・USC それぞれの大学の特徴を生かしたプログラムを提供しており、参加学生の意識に与える影響も異なるものと示唆された。今後も研修効果の関連要因について検討し、当該研修の更なる充実を図りたいと考えている。